1985年、夏。
俺たちもセン公もアツかった。

かば

KABA

山中アラタ　折目真穂　木村知貴　さくら若菜　近藤里奈
高見こころ　石川雄也　牛丸 亮　安永 稔　八尾 満　松山歩夢　冨士田伸明　大橋逸生
八松海志　速瀬 愛　島田愛梨珠　辻 笙　辻 音色　趙 博　皷 美佳　山本香織
竹田哲朗　浅雛 拓　髙橋瑞佳　白善 哲　徳城慶太　川上 祐　西山宗佑
島津健太郎　中山千夏　四方堂 亘

製作総指揮／川本貴弘
エグゼクティブ・プロデューサー／村上裕章　古川正博　制作担当／石井克彰
制作主任・助監督／小田芳揮　制作進行・助監督・絵コンテ／谷口翔大
録音・整音／長尾 優　美術・装飾／萩原英伸（レフティーデザイン）　ヘアメイク／角出拡子　藤田広樹
スクリプター／星名美夜　制作進行／坂口仁志　小杉衛蔵　三宅由莉　撮影助手／前濱福一　東井剛生　前田響広
録音助手／太田有咲　鹿部晶太　金森 翔　スチール撮影／とくいさとし　大同香代子
編集／田中健詞　音楽／Lantan（SIGN SOUND LLC）
主題歌／「Long Line」：騒音寺　エンディングテーマ／「手紙」：あずみけいこ
原作・脚本／川本貴弘　監督／川本貴弘

© 製作／映画「かば」制作委員会

https://kaba-cinema.com/

QUEST HOUSE OSAKA

社会福祉法人ちいろば会地域公益事業　映画会のご案内

1985年大阪西成を舞台にした　実話に基づく、熱い教師たちの物語

川本貴弘監督作品：　か KABA ば

2024年6月8日（土）　13:30開演（開場13:00）

ちいろば園　2階会議室　（限定60席）入場無料

観覧希望は事前予約をお願いします。席に空きがあれば当日でもご覧いただけます。

ご予約は、ちいろば園　0745-72-1923　まで

全部の生徒に優しい先生でいてあげてね

かば KABA 川本貴弘 監督作品　1985年、大阪西成。何にも動じず、何にも屈しない、教師(達)がいた!!
2万人以上が完成を待ち望んだ、実話に基づく《80'熱血青春エンタテイメント》!

1985年、バブル景気を迎える日本に、世の中の矛盾が集まったような地域があった。大阪西成区。出自、偏見、校内暴力、すさんだ家庭……過酷な環境の中でよりよい明日を夢見て、悩み、苦しみ、しかしたくましく生き方を模索するたくさんの子どもたちがそこにいた。彼らと向き合い、正面からぶつかった実在の教師・蒲益男（かば・ますお　2010年に58歳で死去）を知った監督は、2年半にわたる取材を経て2017年にパイロット版を製作。2万人を超える人々からの完成を望む声に押されて企画から7年、ついに映画は完成。ソーシャルディスタンスが叫ばれる未曽有の混乱の今、真の人間同士のつながりとは何か、これからの時代を生きるヒントがこの映画にはある。蒲先生を演じるのは自身も大阪出身である山中アラタ。ヒロインの新米教員を映画初主演となる折目真穂。もうひとりのヒロインであるかつての教え子にNMB48を卒業後、女優として活動中の近藤里奈。共演に木村知貴、石川雄也、四方堂亘らの実力派に加えて関西演劇界から皷美佳、浅雛拓、山本香織らが参加、さらにアニメ『じゃリン子チエ』のチエ役でもおなじみ中山千夏が賛助出演している。

COMMENT

思春期の頃、この映画に登場するこどもたちと同じ境遇の級友たちがいた。
あるとき、私の言動がもとで、級友たちに弾劾され、私はレイシストなんだと気づかされた。
この作品を観たときに、その記憶が蘇り、背筋がぞっとした。いまも残る風景。こどもたちは、こどもたちだけで、気づいていく。周りのおとなたちは、こどもたちが気づいたことにすら気づかない。が、この"かば"せんせいたちは、そんなこどもたちの気づきの場に立ち会いたい、かかわりたいと想う。そして、いつのまにか、こどもたちに心動かされる。テーマはそこへと収斂していき、おとなたちの願望でこどもたちをえがく一方的な教育映画とは一線を画す。『かば』は、社会的でありながら、笑えて、涙して、捻れや断絶に打ち克っていくその道行きが絶妙で、とても映像的で、美しい。みんな、観ないと！　**阪本順治**（映画監督）

腐敗してクソまみれの世の中で押し潰されそうになりながらも奮闘して生きている、実在のかば先生たちや中学生たちに対して、作り手の優しく、かつ慈愛に満ちた眼差しに触れて、私は幾度も涙を流してしまった。孫のような世代の作り手に対して失望感を抱いていた私だったが、この作品を観てもう一度、彼らに希望を託してみようと思い直すことができた。この優しさこそが、狂ったニッポンを立て直す必須の条件だからだ。　**原一男**（映画監督）

笑った。そしてパワフル。全員が主役の映画だ。西成区と大正区、木津川を挟んで在日や沖縄の人が多い土地。丹念に描かれた風景と生活が全員を主役に押し上げる。かといって常に中心にいるわけでもない。他者を前にして脇にも回る。現実がそうなのだ。主役中心の世界なんてない。この映画のように、人は人を支えて生きている。　**瀬々敬久**（映画監督）

初めて大阪を、大人やこどもを丸裸にした映画か。**井筒和幸**（映画監督）

2021年　日本　2時間15分　DCP